

# 均一利回りオークション

均一利回りオークションは、低い利回りの入札を「勝ち入札」として、どの落札者も均一の利回りを得る方式です。落札者の決定に競争メカニズムが働くこと、また一物一価の公平性が実現することが利点です。以下でその説明をします。説明は、オークション理論の専門家である坂井豊貴氏（慶大教授、Economics Design Inc.）の監修を受けています。

それぞれの入札者は「利回りと口数」のペアを入札します。これはその利回りを受け取れるなら、その口数までの持分を得たいという意味です。例えば「2%、6口」という入札は、利回り2%で6口分までの持分を得たいという意味です。

オークション終了時に、Aさんは「2%、6口」、Bさんは「3%、5口」、Cさんは「4%、5口」を入札していたとします。また、10口分販売されているとします。

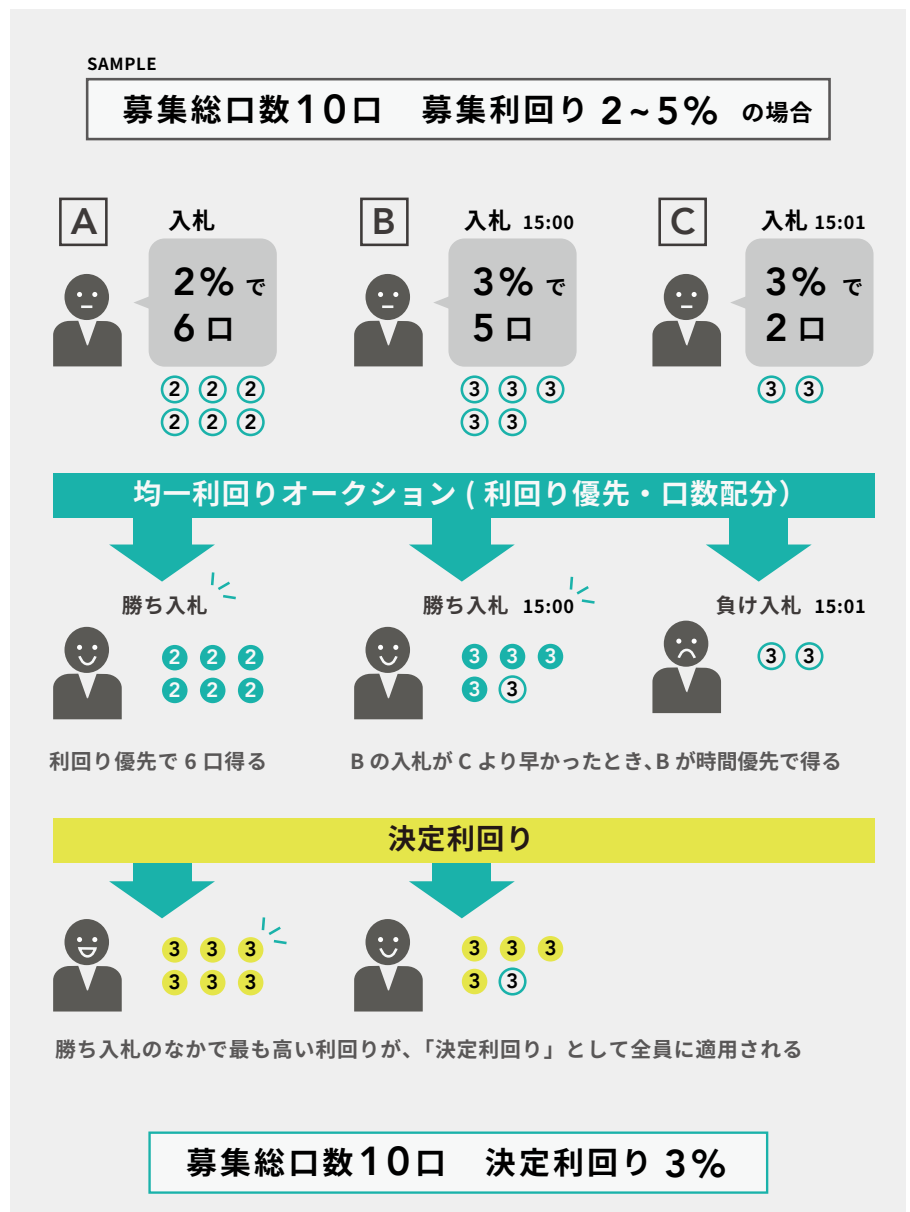
## 勝ち入札

低い利回りの入札から順番に「勝ち入札」となります。このときAさんは6口を、Bさんは4口を得ます。Bさんは入札した5口分のうち4口分だけを得られるのと、Cさんは何も得られないことに注意してください。

## 決定利回り

勝ち入札のなかで最も高い利回りが、「決定利回り」として全員に適用されます。ここだとAさんもBさんも受け取る利回りは3%となります。

決定利回りでタイ（引き分け）となる入札がある場合には、時間優先の原則を採用します。例えば10口の販売量に対して、Aさんの入札が「2%、6口」、Bさんの入札が「3%、5口」、Cさんの入札が「3%、2口」とします。このとき、まずはAさんが6口をフルで得て、残りは4口分です。BさんとCさんは利回り3%で引き分けとなっています。



- もしBさんの入札がCさんの入札より早期だった場合、Bさんが4口を得て、Cさんは何も得られません。
- もしCさんの入札がBさんの入札より早期だった場合、Cさんが2口を得て、Bさんが残る2口を得ます。
- もしBさんとCさんの入札が同時刻だった場合は、抽選で両者の優先順位を決めます。

## 入札の内容

入札者は、オークション期間が開始してから、終了までいつでも入札できます（メンテナンスの期間を除く）。入札するのは「利回り」と「口数」のペアです。このペアは、いくつでも入札できます。例えば「2%、6口」と「3%、4口」を入札した人がいて、決定利回りが2.5%だったなら、この人は「2%、6口」については落札できますが、「3%、4口」については落札できません。

## 入札の更新について

オークションは開始から終了まで、およそ3週間の期間があります。終了前日までは、各日の午前中に前日までの入札が集計され、その時点での「暫定利回り」が発表されます。入札者は暫定利回りを見て、自分の入札を更新できます。例えば暫定利回りが2.9%で、自分の入札した利回りがそれに届いていなかったとき、2.8%に更新するというようにです。

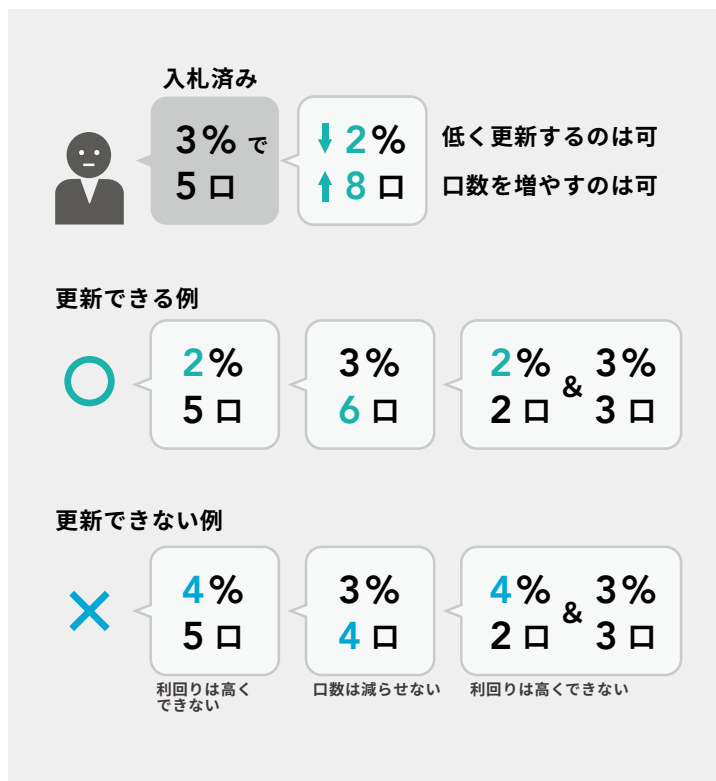
## 入札の更新・キャンセル

自分の利回りを低くする更新、または口数を増やす更新のみできます。

※いま入札している口数のうち、一部だけ（ただし2口以上）の利回りを低くする更新も可能です。

※入札が更新されると、その新たな時刻が優先順位の決定に用いられます。

オークション途中での入札キャンセルはできません。



## 小刻みな競争のメリットは乏しい

均一利回り方式の定義上、どの落札者が得る利回りも、落札者たちが付けたなかで最も高い利回りが適用されます。よって、落札者たちが付けたなかで最も高い利回りが3%なら、自分の付けた利回りが0.1%だろうと2.9%だろうと、3%が適用されます。よって、他の入札者との競争で、小刻みに利回りを下げていくメリットは多くありません。

## 出金手数料

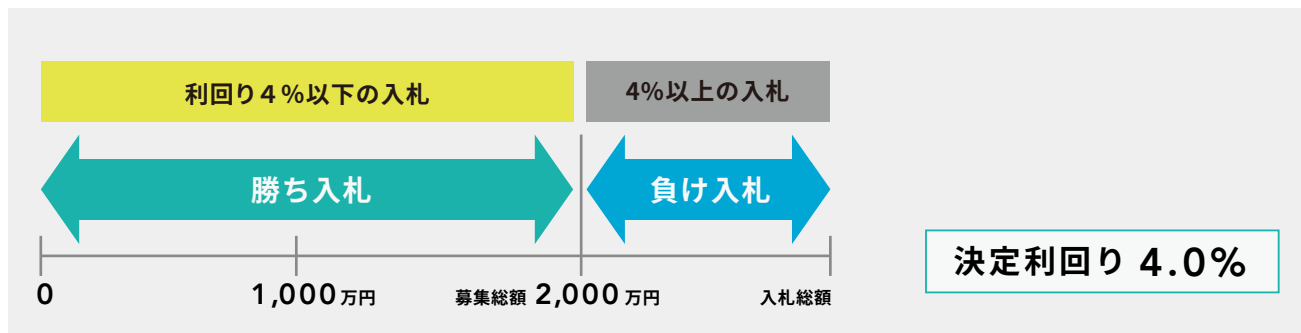
落札総額が募集総額を越した時点から、オークション終了時よりおよそ6営業日までは当社が負担いたします。

※預託金の入金手数料はお客様負担となります。

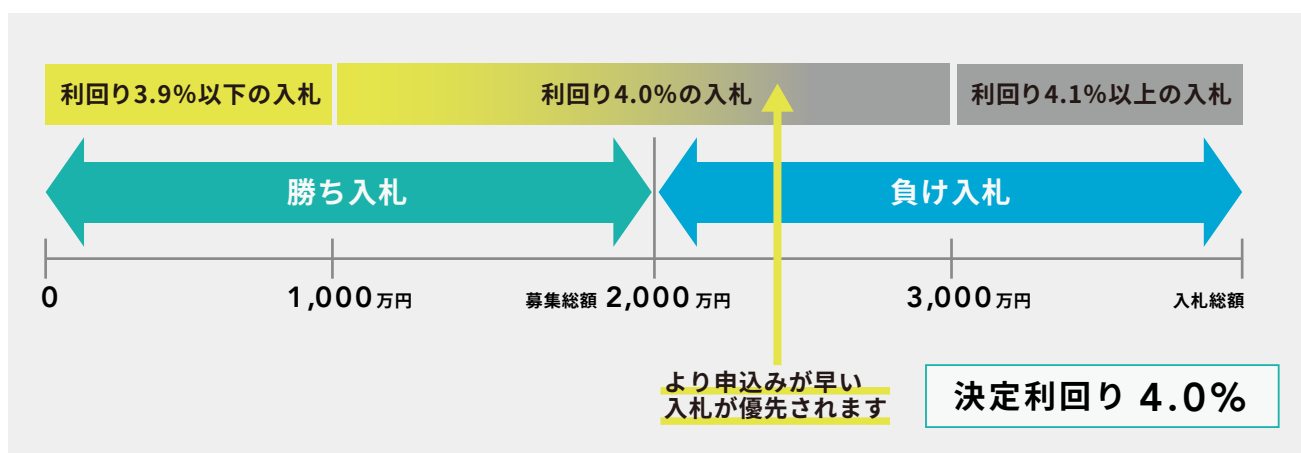
事例 ※オークション終了時

募集総額 2,000 万円 の場合

利回り 4.0%以下の入札総額がちょうど 2,000 万円だった場合



利回り 3.9%以下の入札総額が 1,000 万円、利回り 4% の入札総額が 2,000 万円だった場合  
4% の入札のなかで、時間優先の原則を適用



入札総額<募集総額となった場合、オークションは不成立となり、すべての入札はキャンセル扱いとなります